

平成26年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会

《 感想 》



港湾局、そして海事局を国土交通省で担当している審議官の松原でございます。本日は地元唐津市・坂井市長、そして財部対馬市長、ここすばらしい九州での交流海道ネットワークの開催、ほんとうにおめでとうございます。前回の開催地であります男鹿市の渡部市長さんも来られていますし、先ほど決まった次回の開催地、敦賀市の副市長さんにもお越しいただいて、すばらしい会議になったと思います。本番として、この後に続く講演会、懇親会があると思っております。

私のほうから、今日の会議にて3点ご報告いたします。

まず、国の今の状況です。今回祝日法を改正しまして、2年後の8月から山の日というのがスタートすることになりました。海の日が今から10年ほど前にできたんですけども、ハッピーマンデーということで、かつて7月20日だったのが7月の第3月曜日になったわけでございます。これについて、本来の7月20日、まさに明治天皇が北海道、東北から無事横浜に船で帰還された、7月にちなんだ日に戻すべきではないかと国会の先生方の間でいろいろ議論があって、今臨時国会で祝日法改正の提案しようではないかという記事を先日新聞で読んだところでございます。今年は京都の舞鶴で「海のフェスタ」があったと先ほどありましたが、来年の開催地は熊本・有明地方で、これも京都に並んで五つ六つの7団体の市町で誘致をし、来年開催することになったというのがご報告の一つ目です。

それから二つ目に、先ほど来、高岡市からもご報告がありましたけれども、クルーズ船につきまして今、税制の改正要望をしております。空港に行くと、海外から日本に帰ってくるときに免税品が買えますよね。税金のかからないお土産を日本の中に持って帰れる。

例えば、お酒とかたばこですね。今回、日本に来てくれた海外のお客さんに、港の岸壁で地元の物産を売る。例えばこの唐津でお買い物を目の前で客船についてもらって、露天でもいいんですが、テントで日本のお土産を売る、消費税8%は行く行くまた上がるということではありますけれども、これを差し引いてお売りできるということです。今、消費税分を免除できるような制度を改正要望として出しております。これについては、年末に向けてこれからいろいろと議論がされると思います。

最後、三つ目でございますが、先ほど財部議長から厳しいご指摘を受けました。予算がどんどん減っているのではないか、特に日本海側、声を上げなければいけないのではないかというお話だったと思います。私も全くそのとおりだと思っております、国のほうにいろいろお声は聞こえてくるわけでありますが、地元の声は、市長さん、あるいは県、国会議員の皆さんを通じて、しっかりお届けいただければと思っております。そういう声をいろいろとお聞きしながら、今の政権の課題であります地方創生に向けて、港湾局も前へ進んでいきたいと思っております。

また東京でお待ちしております。今日はどうもありがとうございました。